

第 2 回いなべ市行政改革推進委員会 会議概要

<p>日時・場所</p>	<p>平成 23 年 5 月 27 日 午前 10 時から 員弁庁舎第 7 会議室</p>
<p>出席者</p>	<p>委員：11 名出席（丸山康人、東川薫、伊藤隆、児玉正光、三輪了啓、西村貴樹、矢野清久、佐々木広視、稲葉淑乃、畑中准子、近藤節子）以上敬称略 説明者側：行政改革本部員：4 名（総務部長、福祉部長、企画部長、農林商工部部長） 事務局：8 名（政策課、長寿介護課、南地域包括支援センター）</p>
<p>会議次第</p>	<p>1 会長あいさつ 2 審議事項 高齢者福祉の国の動向 資料 1 いなべ市が実施している高齢者福祉サービスについて 資料 2 藤原町立田地区の先進的な取組について （三輪委員） いなべ市社会福祉協議会の取組について （稲葉委員） 見守りネットワーク取組地区の現状と課題について 資料 3 意見交換 3 その他 次回の開催について 8 月初旬を予定</p>
<p>配付資料</p>	<p>1．事項書 2．高齢者福祉の国の動向 3．いなべ市高齢者福祉施策体系 4．見守りネットワーク取組地区の現状と課題について</p>
<p>審議の概要</p>	<p>審議事項（以下 印は委員長、 印は委員発言、 印は事務局発言） 委員長あいさつ 今回は、国の動向や市内の事例を紹介していただく中で、課題の抽出をお願いしたい。 資料 1 により説明 高齢者福祉の国の動向 資料 1 により、福祉部長から説明 国は現在、日常生活圏域（30 分でかけつられる圏域）を中心に地域包括ケアシステムの構築を考えている。 地域包括ケアの 5 つの視点による取組 ・医療との連携強化 ・介護サービスの充実強化 ・予防の推進 ・見守り、配食、買い物など、多様な生活支援サービスの確保や権利擁護など</p>

- ・ 高齢期になっても住み続けることのできるバリアフリーの高齢者住まいの整備

この制度に対する国からの財政的な支援はあるのか

まだ、具体的な説明はありません。

いなべ市の課題は何ですか？

いなべ市としての課題は、市民参加による見守りを地域に展開していけるように、地域の意識をいかに醸成していくかが課題です。

いなべ市が実施している高齢者福祉サービスについて

資料2により説明

藤原町立田地区の先進的な取組について（三輪委員）

三輪委員より説明

子どもも高齢者も生き生きとした地域づくりを目指して活動

秀真の会（地区ボランティア協議会）の中に、子ども支援チーム、高齢者支援チーム、ふれあい支援サービス、活性化支援チームを作り活動を行っている。

いなべ市社会福祉協議会の取組について（稲葉委員）

稲葉委員より説明

平成22年度のサロンリーダー・サポーター養成講座の取組の内容、成果、浮かび上がった課題を説明

いなべ市の住民は困っていない状況。

遠慮が美德とされる田舎独特の根強い意識の改革が必要など

ミニサロンとふれあいサロンの重複

市としてはミニサロンの活動を増やしていきたい

見守りネットワーク取組地区の現状と課題について 資料3

資料3より説明

今は、防災に関する意識が高まっている状況であり、防災と絡めて事業を展開することが有効である。

地域との関わりの少ない人でも、いざという時には、避難をさせてもらえるという安心感が大切です。

地域包括ケアシステムの日常生活圏の30分でかけつけられる範囲とはいなべ市ではどのような範囲をいうにか

旧町単位を想定しております。

ネットワークの圏域も同じですか

ネットワークの圏域は自治会単位を考えています

いなべ市の老人クラブ加入率の平均はいくつですか

90%を越えています。

資料3の坂本地区の老人クラブ加入率の80.6%は、決して高い数字ではないと言う事になりますが、老人クラブへの加入が強制になっている場合には、老人クラブの加入率が何の意味を持たなくなるので、この数値に変わる特徴的な指標を選定して地域の特徴を明らかにする資料を次回までに整理して下さい。

福祉バスは決まった場所しか走ることが出来ないのか

というのは、高齢者が四季の家のような活動に参加するためには、そこまで行く手段がないので困っている状況があります。

福祉バスの前はコミュニティバスで、基本的には三重交通の自主運行バスの路線を運行しておりますが、定期的な路線やダイヤの見直しを行っています。

答申を考えるときに、提言として公共交通による利便性の向上のことも入れていく方向で検討をお願いします。